

令和6年度愛知県栄養教諭研修会及び総会

令和6年5月22日（水）ウィルあいち ウィルホールにて開催され、講演及び総会式典が行われました。

講演

演題「SDGs（持続可能な開発目標）」

講師 愛知県政策企画局企画調整部 企画課 加藤健太氏



ご講演では、SDGsの17の目標と愛知県での取組を具体的に示してくださいました。

その中で、すべての目標のゴールはつながっていて、一つの問題が連鎖的に多方面へ影響を与えており、「どんな影響があるのか先の先まで考える」ことが大切であるのご教示くださいました。また、SDGsと聞くと世界規模の取組で参加しづらく、自分ごととして認識することが難しい印象もありましたが、「旬の食材を知ることもSDGsの取組

である」と拝聴し、ふだんの生活の中での身近な行動がSDGsにつながっていることを理解することができました。

ふだん行っている旬の食材の使用や食品ロスを減らすための取組にもSDGsの考え方を取り入れ、これらの取組が17の目標につながっていることを食に関する指導を通して子ども達に伝えたいと思います。

【ご講演を拝聴しての感想】

栄養教諭として、今回学んだことを自分の生活の中で実践するだけではなく、児童生徒にも食に関する指導を通じて伝えていきたいと思います。特に、目標2「飢餓をゼロに」での、農林水産物の「旬」を知り、積極的に選択することや、目標3「すべての人に健康と福祉を」での、食事などの生活習慣を見直すことについては、食に直接関わっており、今までも指導していた内容でした。これからは、さらにSDGsの考え方を取り入れて、「食べ物の旬」や「生活習慣」などが気候変動やエネルギーの過剰消費、経済格差、感染症の拡大など人間活動に伴い引き起こされる地球規模の課題につながっていることも加えて、食に関する指導を行っていきます。

先生がご講演中におっしゃっていた「今の日本と同じような生活をした場合、地球2.7個分の自然資源が必要となる」という言葉がとても印象に残っています。SDGsという言葉をよく聞くようになってからかなり経ちます。世界規模で企業や学校、施設などが取組を行うことで、SDGsが進められていて、目標達成に近づいていると思っていました。しかし、講演の中のお話にあったようにたくさんの取組がされているにも関わらず、目標が達成されていない現状をもっと自覚し、行動を変えていかなければならないと強く思いました。世界規模の取組だけでなく、身近な行動が持続可能な社会を作るための行動になっていることに気づくことができたので、子ども達にも身近な例を伝え、より自分ごととして考え、行動に移せるような指導を行います。

総会式典



愛知県教育委員会保健体育課 主査 天野万喜男様はじめ、愛知県小中学校長会副会長、公益財団法人愛知県学校給食会理事長、愛知県高等学校給食研究協議会会長、愛知県特別支援学校長会会長、愛知県学校給食センター連絡協議会会長にお越しいただき、ご祝辞を頂戴しました。